

## 第76回 近畿地区卒業設計コンクール応募作品一覧

令和4年4月18日 日本建築学会近畿支部

### 《短大・高専・専修学校の部》

No.	作品名	学生氏名	所属	図面枚数
1	ヨリミチトンネル	大岡 瞳	修成建設専門学校 建築学科	4
2	生物とアートと共に	山下航平	中央工学校OSAKA 建築学科	19
3	ウルシノモリ ー漆のある暮らしと風景ー	竹治万里子	京都建築専門学校 建築科二部	7
4	はじマルシェ	松本華奈	京都建築大学校 建築専攻科	7
5	<a href="#">まちなかタイムマシーンー“姫路”で過ごした日常の暮らしが繋がるようにー</a>	塩坂優太	明石工業高等専門学校 建築学科	8
6	若者たちの詩	植木智也	修成建設専門学校 建築CGデザイン学科	7
7	語る家 ー築127年の古民家再生ー	山田早慧	大阪工業技術専門学校 建築設計学科	20
8	人と建築をサステイナブルに、ひらラボ nature School	杉林直人	中央工学校OSAKA 住宅デザイン科	12
9	宇治まっちゃみち	中塚大晴	京都建築専門学校 建築科二部	10
10	憶の邂逅～憩いの場における文化的価値の再考～	藤原健汰	修成建設専門学校 建築学科	9
11	<a href="#">消えゆく都市の記憶 文化拠点としての崇仁の再構築</a>	日高涼太	京都建築大学校 建築学科	9
12	<a href="#">アガリヤ～河川とうまく付き合う住まい方の提案</a>	宗政伊織	明石工業高等専門学校 建築学科	7
13	Flud	BIMA YUDIBA PANJU (ビマユディバパンジュ)	修成建設専門学校 建築CGデザイン学科	4

(受付順) 以上13点<No. 欄に○印のものは入選作品>

### 《工業高校建築科の部》

No.	作品名	学生氏名	所属	図面枚数
1	traverium	荒木小春 吉池虹光	大阪府立工芸高等学校 インテリアデザイン科	2
2	<a href="#">再生エネルギーを考える学校</a>	赤松嶺武	大阪府立工芸高等学校 建築デザイン科	4
3	二階建て専用住宅	谷野桃果	奈良県立吉野高等学校 建築工学科	6
4	陽だまり	高野 聖	大阪府立工芸高等学校 インテリアデザイン科	2
5	図書館	横内稀人	奈良県立奈良朱雀高等学校 建築工学科	8
6	<a href="#">世代を超えて分かちあう心</a>	磯野愛美	大阪府立工芸高等学校 建築デザイン科	4

(受付順) 以上6点<No. 欄に○印のものは入選作品>

日本建築学会近畿支部

令和3年度近畿地区短大・高専・専修学校並びに工業高校  
卒業設計コンクール（第76回）審査報告

審査員長 高木 真人

令和4年4月18日（月） 審査会場：オンライン（Zoom）を利用

審査員長（互選） 高木真人

審査員（50音順） 亀谷義浩・光嶋裕介・高原浩之・西野佐弥香・西野雄一郎・若本和仁

応募作品 短大・高専・専修学校の部13点、工業高校の部6点（別紙参照）

### 審査経過と審査講評

本年度は、各審査員が事前に配布された応募作品のPDFデータを審査当日までに確認した上で、4月18日（月）にオンライン（Zoom）により審査を行った。審査当日は審査員7名のうち、5名が出席し、2名が欠席した。審査に先立ち、卒業設計審査の目的・対象・提出・審査などの内規を確認し、審査員の互選により審査員長を選出した。

本年度の応募作品は、「短大・高専・専修学校の部」13作品、「工業高校の部」6作品であった。審査にあたって、各審査員にそれぞれの部門において優れていると思う作品（3点以内）を投票してもらい、欠席の審査員2名からも事前に投票結果を事務局に提出してもらった。ついで、各審査員から投票した作品に対してコメントしてもらった上で、議論するという流れで進めた。

「短大・高専・専修学校の部」の投票結果では、No. 5が6票、No. 12が5票、No. 11が4票、No. 6が3票、No. 7が2票、No. 8が1票であった。審査員から一通りコメントしてもらい、各作品について自由に意見を交換・議論した結果、得票数の多かったNo. 5, No. 12, No. 11, No. 6の4作品に絞られた。No. 5は緻密なリサーチとそれに基づく説得力ある提案が評価され、No. 12は地域が抱える問題を解決しながらの多様な提案が評価され、No. 11は屋根を主体としたデザインや表現力が評価され、No. 6は訴えかけてくるストーリー性が評価された。次に、この4作品に対して出席した審査員5名で、優れていると思う順に3点、2点、1点、0点と重みづけをつけた上での二次投票をしてもらった。その結果、No. 11が10点、No. 5が9点、No. 12が6点、No. 6が5点となった。No. 12とNo. 6の差はわずか1票であるが、一次投票においてNo. 12が5名から得票していること、No. 6については提示された5つのパターン同士のつながりが弱いという指摘もあったことから、No. 12をより高く評価した。この結果、No. 5, No. 11, No. 12の3作品が入選作品として選出された。リサーチに基づく提案が評価された作品と造形力・表現力が評価された作品があったが、いずれも歴史的変遷、記憶、空間の一時的利用など時間をテーマにしていたという共通点があった。

「工業高校の部」の投票結果では、No. 6が7票、No. 2が5票、No. 1が2票であった。各審査員から投票した作品に対してコメントしてもらい議論したが、No. 6はテーマの設定や全体的な完成度の高さが評価され、No. 2はテーマの設定とその実現のための様々な試みが評価された。この2作品では、全体としてNo. 6がより高く評価され、ついでNo. 2であった。それ以外の作品にはテーマの設定が不足しているなど評価に開きがあったことから、No. 2とNo. 6の2作品

が入選作品として選出された。今後も、なんらかのテーマ・こだわりを持った作品というのを期待したい。

(高木)

### まちなかタイムマシーン — “姫路” で過ごした日常の暮らしが繋がるように—

塩坂 優太君 (明石工業高等専門学校)

姫路城を囲む姫路市中心部の歴史的変遷を読み解き、町の魅力を住民に発信するための施設を提案している。設計の手がかりを得るために行った、都市変遷、文化的痕跡の発見、文化的エレメントの抽出という3つの調査の緻密さにまず圧倒される。町に対する強い愛情が伝わってくる。設計敷地は今後の移転が計画されている姫路市立動物園の跡地であり、象舎は動物園の歴史館に、鳥舎は町の歴史館にといった具合に動物園の遺構を転用して各施設を計画している。意匠としてはやや控えめで、もう少し遊びや挑戦があってもよかったのかもしれないが、過去の歴史と記憶を未来に繋ぐことに徹する本作品は、それゆえに、私たちが生きている今この時もいずれ過去になり歴史になると語りかける。これから社会に出ていくであろう作者が、本作品に滲み出る真摯さと忍耐強さをもって建築に向き合い続けていくことを期待する。

(西野佐)

### 消えゆく都市の記憶 文化拠点としての崇仁の再構築

日高 涼太君 (京都建築大学校)

群としての建築の設計を通して同和問題を考え、空間として絶望を希望へと変換する可能性を提示したことを高く評価した。大小さまざまな建築を円形の劇場を中心に「バラック」として設計し、断面図からもわかるように、空間の変化を地形との関係と同時に思考することで、雑多に集合した断片的な建築が、多様な光の入り方によって豊かな表情を獲得している。それぞれの建築群が単純な軸線やグリッド状に配置されているわけではなく、緩やかに動きを内包した自由な配置計画によってバラックの魅力を最大化した独特な関係性を構築している。このようなヒューマンスケールの居場所が、新しい都市の記憶の舞台として、日常を彩ることができれば、まさに人と共に「生きられる」文化拠点として素晴らしい建築となるだろう。

(光嶋)

### アガリヤ〜河川とうまく付き合う住まい方の提案

宗政 伊織君 (明石工業高等専門学校)

愛媛県大州市徳森の一带は、たびたび豪雨により浸水被害を受けてきたところであり、水害対策が求められているエリアである。加えて、高齢者が多く、空き家も多く、地域交流が

可能な場所も不足しているなど様々な地域問題を抱えているということをリサーチにより明らかにしている。これを受けて、まず水害対策として、和歌山県熊野地方にみられる「上がり家」に着目し、さらにこのエリアが抱える地域問題の解決をも目指して3つのパターンの建築を考え、地域一帯に点在させている。具体的には、建物の低層部を、貸し（店舗）スペースにして地域活性化を目指すもの、ガレージとして土地の有効活用を目指すもの、公民館として地域交流の促進を目指すもの、といういずれかのパターンとなっている。個々の建物のデザインはやや控えめではあるが、リサーチに基づいて地域問題の解決ともリンクしながら、建築の住まい方をローコストでシステムの提案しており、地域の再生という視点において高く評価できる。

(高木)

### 再生エネルギーを考える学校

赤松 嶺武君（大阪府立工芸高等学校）

本作品は、再生可能エネルギーを専門的に学ぶ場の提案である。

再生可能エネルギーは自然の中で学ぶべきという思いと、新しい技術である雪を利用した摩擦帯電発電を学ぶことを目的として、自然豊かで適度な積雪のある長野県安曇野市内に敷地を求めている。自然エネルギーの活用には、場所の特徴を十分に理解することが重要であるから、敷地選定がまず評価される。

建築計画については、基礎断熱をはじめとする断熱性能の向上、積雪を考慮した床レベルの設定、積雪・発電効率・雑草を考慮した太陽光発電パネルの設置方法など、きめ細やかな設計が見られる。建設エネルギーが小さく、炭素貯蔵も見込める木造が選択されている点も、設計趣旨や現代の社会課題によく適合している。

以上のように総合的な計画・設計力と図面の完成度が高く評価された。

ただ、再生可能エネルギーを取り入れた建築のあり方や魅力についての提案があれば、さらによかったと思われる。魅力的な空間を通じて直感的に再生可能エネルギーの良さを知ることができ、さらに普及にもつながるだろう。そういう視点も持って、これからも建築に取り組んでもらいたい。

(若本)

### 世代を超えて分かち合う心

磯野 愛美君（大阪府立工芸高等学校）

近年の少子高齢化の社会課題を取り上げ、コンセプトで示された、様々な世代の人が集え、地域で子供達を見守れる施設を具体的な敷地設定（大阪市西成区）を行うことで社会課題の一つの解決案を示した提案である。

高齢者施設と保育園の併設空間をそれぞれのライフスタイルから接点となる空間イメージが丁寧にCGで表現され、キャプションを加えて言語化されていることで、多世代が交流できる空間から生まれる温かなコミュニケーションの姿と空間の役割を感じ取ることができた。

同時に施設の利用者だけにとどまらず、地域へ開く提案も盛り込まれており、地域のまちづくりへの貢献も大いに期待できる。

工業高校部門において、テーマ性、プレゼンテーション手法ともに非常に優れた作品であり、入選作にふさわしい提案である。このように建築には、社会課題の解決に貢献する力がある。今後も磯野さんが、その「デザインの力」を培い、益々成長して行くことを期待している。

(高原)